

えでぴあ

立川と語ろう 立川に生きよう

February 2015

Écoutez Bien Vol.33 No.363

2

知ってる? 変身サイボーグ



表紙の人「立川で三代」(有安藤昌店 安藤家三代(富士見町))

副菜を美味しく彩る乾物は、日本人の知恵の塊かもしれません。



立川うどん—— 準優勝にひと役買った！

第9回学校給食甲子園

平成26年12月7日(日)。

全国から参加した2157校・施設の頂点を極めたのは、
秋田の藤里町学校給食センターだった。

トップは逃したが準優勝に輝いた関東ブロック代表・東京都文京区立青柳小学校。
地場食材を工夫した献立のひとつを担ったのは、我らが「立川うどん」だった！



調理風景

「べっこう千草おひたし」 あきる野の醤油と内藤唐辛子を調味料に、江戸東京野菜の和え物になっている



東京チームの食材（下の写真も同様）



「浅草のりごはん」



くせない立川うどんが入った「うどんちゃんこ汁」



関東ブロック代表 東京の2人が入場



12校・施設 24名が勢ぞろい



選手宣誓は福井県代表
福井市大東中学校の栄養教諭 田中範子さん

学校給食甲子園はいわゆる料理自慢コンテストとはまったく違い、かなり厳しい大会ルールのもとに行われる。献立は実際に学校給食として提供したことがあるもので、文部科学省の学校給食摂取基準に準じていること。都道府県の地場産物を使用し、その特色を活かした献立であること、食育の生きた教材として活用されていることなど、11項目にも及ぶ。

平成26年に行われた第9回。第1次選考で2157校・施設から220校・施設に絞られ、さらにそこから第2次で58校・施設、第3次で24校・施設、第4次の選考に残った12校・施設が、12月7日(日)女子栄養大学駒込キャンパスで行われた決勝大会に進んだ。

立川うどん、がんばれ!の思いを胸に、昨年の優勝者・東京都文京区立青柳小学校の二連覇を期待しながら審査結果を待つ。審査基準は献立の栄養価・バランスはもちろん、衛生上の管理、調理技術、栄養士と調理員とのチームワーク、地場産物の活かし方がみられるが、それにもまして学校給食であることから、重要視されるのは子どもの視点。見た目や味付けも大事だ。試食タイムには、うどんちゃんこ汁に入ったうどんのシャリシャリ感を楽しんだ。立川の子どもたちには当たり前になっている「地下に野菜がある」という食育授業が、都会の子どもを興奮させるということに新鮮な驚きを感じた。メインディッシュは奥多摩やまめ。牛乳は東京牛乳!デザートに出てきたのは「東京ゴールドキウイ」!すごいじゃないか、東京!



調理前の手洗い検査



調理作業別にエプロンが分かれている



「奥多摩やまめの重ね焼き」 ピンク色の身が実においしいのだ



「東京ゴールドキウイ」は東京生まれの新品種
金色に見える黄色と甘さが特徴



東京代表の文京区立青柳小学校
学校栄養職員松丸さんと
調理員 石川純華さん

優勝した
秋田県藤里町学校給食センターの献立
（白神あきたこまちのみそつけたんば、
牛乳・枝豆のかわりがんも・とんぶり
あえ・白神舞茸のうどん汁・山葡萄の
ゼリー）



準優勝の東京都文京区立青柳小学校の献立
（浅草のりごはん・牛乳・奥多摩やまめの重ね焼き・べっ
こう千草おひたし・うどんちゃんこ汁・東京ゴールドキウイ）



昭和40年代、おもちゃの時代

俺たちの昭和はこうだ!

立川の立川らしさが際立った昭和40年代。

時代を語ってもらおうじゃありませんか、この三人に。

プロフィールもそれぞれ書いていただきました。お楽しみ下さい。



奥富 栄二 さん

昭和38年立川市に生まれ、立川に育った立川っ子。若草幼稚園・立川一小・立川一中・都立日野高校卒業後、とある学校を経て、昭和61年 ガッチャマンも勤務する立川市役所に就職。現在に至る。
クルマとヒコキーとマンガ・アニメをこよなく愛する、オタク第一世代。また、近年は鈴木氏に感化され立川市の歴史的資料収集やアーカイブ化などに興味津々となり、そんな仕事で、ふるさと立川のお役に立てたらよいな、と考える今日この頃。

鈴木 この人(奥富さんを指す)はオタク*なんですよ。僕は違います。マニアです。そこ違う。
杉山 鈴木さん、そこすごくわかります。オタクとマニアの違いがありますね。私はフェチな

んです。^{へき}です、^{へき}。
(一同爆笑)

杉山 もともとオタクという呼称は、オタク第一世代の方たちがお互いに二人称を「お宅」と呼んでいたのが始まりなんですよ。

奥富 私はまさにオタク第一世代です。

鈴木 コトブキヤは俺も小っちゃい頃からお世話になっていて、まだフィギュアの時代じゃないから、GIジョーとか変身サイボーグ1号とか買ったし、当時流行っていたおもちゃを結構早くに店頭においてたよね。笑い袋とかモーラとか。母親と買い物に行っても、弟とコトブキヤですつと見てるんだよね。

奥富 そうそう、そうだったよね。でも母親と一緒に地下にいて買い物を手伝ったりすると、サンモリノでご飯食べさせてくれたりするんだよね。サンモリノといえばナポリタン。

鈴木 俺たち立川生まれの男子にとっては、サンモリノのスパゲティとか高島屋の焼きそばっていうのが、安くてたくさん食べられる定番でしたよね。第一デパートには諏訪通り商店街のお店も入っていて、福来軒とか良銀とか堤屋とか。でね、テーブルには必ずあの、占いみたいなのが置いてあって。

奥富 あったあったあった。

鈴木 ピーナッツかなんか入っててね。

奥富 あれがやりたくってねえ。

杉山 今もありますよ。復活してます。

鈴木・奥富 え!ほんと? 懐かしいなあ。

鈴木 70年代の立川って、今思えば喫茶店なんかも、すごいい面白い個人商店がいっぱいありましたよね。アンダーグラウンドな感じでした

よね。地方に嫁いだ同級生が「立川に帰ってき中央線のドアが開くと立川の匂いがする」って言うんですよ(笑)。なんとなくわかんないでもない。音もそうだよな。独特な喧騒とか。

奥富 南口に有線放送流れてたよね。

鈴木 高校生になったばかりの時、友達に頼まれて一緒に第一デパートの4階にあった鉄生堂に行ったんです。そこで彼は大量の図書券を出して何を買うのかと思ったら『135人の女友達』っていう写真集を買ったんだ(笑)。それはそれはあのころの高校生男子にしたら誰もが欲しい本なわけですよ。オレも欲しいなあとは思ってたけれども、高くて買えない。それをそいつはいきなり図書券で買った。ほんとにうらやましくってね。それをずっと忘れてて、40過ぎたくらいの時に、錦町のカワイヤの長井さんね、同い年なんです。時々一緒に飲むんですけど、ある時、『135人の女友達』の話をしたら、長井さんが「お、たけちゃん、俺、それ持ってるよ」って。(一同笑)

「これは俺が持ってるよりたけちゃんが持ってる方が価値が出るな」とか言っちゃって、もらったですよ!
(一同爆笑)

杉山 私がコトブキヤに通うようになったのは、大学生になって上京してからですけど、奥富さん、第一デパートに入る時、いつもどちらの入り口から入っていました?

奥富 東側ですね。東側から入ってエスカレーターで上って行って、オリオンさんに入るんですよ。

杉山 ですよな。一回オリオンさんの方ですよな。

奥富 それでああ、オリオンさんで買ったり買



鈴木 武 さん

昭和38年12月30日 立川生まれ。めぐみ幼稚園・立川四小・立川一中・都立武蔵村山高校を経て有名私立大学卒業。3年間の武者修行の後、平成元年より家業の株式会社立川印刷所(創業昭和5年)勤務。現在同社専務取締役。
昭和の立川の風景写真を収集、デジタル化し、『the SOUND of Oldies in TACHIKAWA 昭和色 立川の風景シリーズ』としてカレンダーや写真集を出版している。「昭和サブカルチャー」「昭和の立川」マニア。ボーイスカウト立川第7団加盟。

わなかったり。で、一回出て、眼鏡屋さんをパスして、グルッと回って、フィギュアとかいろいろ置いてあったところをチラッと見ながら、奥までずっと入っていくというのが第一デパート3階のゴールドルートですよな。

杉山 そうですよな。いきなりコトブキヤじゃないんですよ。まずオリオンで下準備をして。同志はいっぱいいますから、「お、あいつさっきブキヤにいたな」みたいな感じですよな。コトブキヤからオリオンさんに戻って本を確認したりね。

奥富 あそこってすごいんですよ、ブックカバー。普通ってこう折り込むだけじゃないですか。そうじゃなくて、角を切ってあって包み込むようになっているんですよ。第一デパートで語るといったら、まずこれを言わなきゃいけない。コミックスに対する愛情を感じちゃいますよ。

杉山 オタクの心を掴んでいるんですね。

鈴木 小さい頃、コトブキヤのプラモデル売り場でね、基地のアメリカ人の子がガッチャマンのG1号のプラモを欲しそうにずっと見てたの。お母さんが来た時に、「ガッチャ」って言って、ねだったら首を横に振られて買ってもらえなかったのよ。その後、うちのお袋が戻ってきたから「ガッチャ」って言ったら首を横に振られた。(一同爆笑)

奥富 でも、おれ、あそこでゴッドフェニックス買ってもらったよ。

鈴木 ほう。

奥富 全部入ってるやつ。

鈴木 1号、2号?

奥富 4号も入ってる。ちゃんと作るやつね。

鈴木 10年くらい前にゴッドフェニックスの超合金の見つけてね。欲しくってね。今、俺らのそういう心をくすぐるもの、結構あるよね。

杉山 廻りまわって、今、「ガッチャ」の秘密基地がここ、花みどり文化センターなんですよな。そこでおふたりが「ガッチャ」と言ってくださってうまくオチがついたかなと。まさか立川でガッチャマンが舞台になるとは思わなかったですよな*。

鈴木 あ、そうかそうか、そうなんだ!

奥富 かわいいですよ、はじめちゃん*。

鈴木 はじめちゃんてバカボンの弟じゃなくて(笑)?

杉山 ガッチャマンは市役所の職員が登場人物にいますからね。イケメンの。

鈴木 君はどう見てもガッチャマンじゃない(笑)。やれるとしたら、竜だね。5号*。

杉山 みみずくの。

鈴木 昔のアニメは知ってますよ。それこそあれだよな、エンディングの歌で白鳥のジュンがキックして足を上げると、下着が見えちゃうんだよな(笑)。

杉山 もう、どんだけあれで男の子がまいったか。
鈴木 たぶん今だったらコスチュームと同じピンクで表現するんでしょうけれど、白だったんだ、これが。

(一同爆笑)

鈴木 ガッチャマンのプラモも1号から5号までバラバラで売っていて、サンダーバードもそうじゃん。基地は基地で売っててね。それがわれわれ男子にとってはたまらないわけです。だいたい滑り台にね、こう、寝ながらね、コックピットに移動してね(笑)。絶対やりますよね。友達んちの応接間行くとね、サンダーバード3号になっちゃうのね(笑)。

奥富 ソファでね。

鈴木 それまでソフビ人形なんてさ、そんな座り方しねえだろうっていう形にしかならなかったんだけど、GIジョーは足首まで動いちゃいましたからね。

奥富 関節が全部細かく動いたよね。

鈴木 その後、変身サイボーグ1号って言うのが出てきましたね。あれはGIジョーが透明になった、んだよね?

奥富 そうそう。だから中の球体のところとかさ、ゴムが全部見えちゃってたよね。

鈴木 あれね、機械部分がゴールドとシルバーがあった。

奥富 あった、あった。

鈴木 グレーもあつたって知ってる?

奥富 知らない。なにそのトリビア的な知識。

鈴木 どこのおもちゃ屋行っても、ゴールドとシルバーはごっそりあるんだけど、グレーは1体か2体しかないんだよ。で、おれは、シルバー買っちゃったんだな。

奥富 なんだよ。

鈴木 ほんとになんてことしたんだろうって思うんだよ。

奥富 グレーでしょ。

鈴木 グレーだよ…。よりによってシルバーですよ。

奥富 うちはゴールドだった。

鈴木 結構一世を風靡したよね。変身サイボーグが小さくなったのがマイクロマン。マイクロマンくらいでいたいおもちゃ屋を卒業してくる感じ。杉山さんなんか、マイクロマンで遊んだ世代じゃないですか?

杉山 やりましたよ〜。変身サイボーグも持っていましたよ、私もシルバーでした。でもグレーは知らなかったです。大人になって、リメイク版が出た時にゴールド買いました。

鈴木 僕ね、大人になってからどこかのおもちゃ屋で買ったんですけど、それは中が青かった。機械が青いの。

杉山 少年サイボーグじゃなくて?

鈴木 なんですか、それ? 少年サイボーグっていうのがあったんですか?

杉山 あ、すみません。フェチなもので。

(一同笑)

鈴木 変身サイボーグ1号の子ども版みたいなもの?

杉山 そうそう。あれは青がありました。それから悪者バージョンありましたね、知りません? 黄色いやつ。

鈴木 わかんない…

杉山 1号が出た時に、悪者でワルダークっていうのが黄色と紫があるんですよ。これも着るのが、それこそタイガーマスクのサタンみたいな感じのものがあって。

鈴木 勉強になるな。

奥富 なるね。

杉山 あとはジャガーって。四足の…。

鈴木・奥富 いた! それは覚えてます。

杉山 変身サイボーグって、ウエットスーツみたいなのをマッチョな体に着せていろいろなものに変身するんですが、マジンガーゼットはカッコ悪かったですね。黒いパンツだけ履いて胴体丸見えになって胸の部分があって。

奥富 ウルトラマンは全身覆っちゃうからよかったけどね。

杉山 仮面ライダーV3とか。要はリカちゃんのアнтиテーゼが変身サイボーグなわけですよ。時代的にはガッチャマンがあって、変身サイボーグ、マイクロマン、その後にガンブラという感じですね。
鈴木 俺なんかの時で、一番買えなかったのはタイガーマスクのソフビとか。

(一同爆笑)

鈴木 人気が凄くてどこにも無くて、八王子のどこかで予約して買った覚えがありますよ。俺、リングも持ってる。あとね、タイガーマスクアタッチケースとかあってね。ただの黒い箱なんですけどね。開ける時はこうして片膝ついて開けるんだよね。

(一同爆笑)

鈴木 そういうのがすぐ欲しくなっちゃうんだよね。

奥富 でも買ってもらえるんだから、やっぱりスネ夫だ。のび太としてはうらやましい限りだよ。

鈴木 スネ夫なんて言われたの初めてだ。せめて花輪君にしてほしい。俺なんかの頃、ニュートラも流行って、ニュートラディッショナルっていう言葉がわからなくて、当時流行っていた靴がニュートラだと思っていた。我々の世代だけにはまったものだったんでしょうね。マディソンバックとはちょっと違う。

杉山 私なんか、中学の時の学校指定バックですもん。

鈴木 うそ！

杉山ほんと。先生か誰かがたぶん憧れてたんでしょうね。マディソンバックが流行った頃からワニタイムずれているんですよ。当時先生がはまって、これは若い子たち喜ぶから持たせようって思った時には…。

鈴木 終わってた。

(一同爆笑)

杉山 不良在庫を我々は3年間持たされていたということです。

鈴木 マディソンじゃなくてマジンソンバックって言うんだよな(笑)。我々のころは紺しかなかった。それがだんだんいろいろな色がでてきたんですよね。

奥富 そう？ 紺しか知らないよ。

杉山 黒しか知らないです。

鈴木 持ち方があるんだよね。だいたいこう肘に



杉山 学さん

昭和42年生まれ。大学で上京してから第一デパートにあったコトブキヤの魔力に魅せられ、立川に通い詰める。エンターテインメント業界でコーディネーターとして活躍していたが、第一デパート閉店の報に接し、これまでの経験を活かした新たな挑戦を志し、壽屋に転職。現在、同社戦略開発部長として雑多諸々の仕事と格闘の日々を送る。"在野の民俗学芸員"と自称しているが、その実態は単なる"民俗フェチ"で、近現代の事象や人物から乗り物・玩具などまで、その嗜好範囲に限りはない。

かけて学ランの前ボタンの間に手を入れるんです。(一同爆笑)

杉山 弊社の清水(壽屋社長)がよく言ってるんですが、本当のオタクっていうのは博識。それも最近のニッチヲクの狭くて深い博識ではなくて、時代背景から世相、おもちゃでも車でも映画でも、なんでも語れるのが本物のオタクなんですよ。鈴木さんも奥富さんもすごいです。もうアニキと呼ばせてください！

(一同爆笑)

注釈

* **オタク**＝“おたく”の表記は「オタク」が一般的。しかしオタク達はオタクではない一般人との差別化を図るために「ヲタク」と表記するようになった。オタク第一世代は「オタク」と表記。

* **ガッチャマン クラウズ**＝立川が舞台になったテレビアニメ。女子高生が主人公で舞台に立川女子高校が使われた。人気声優が起用されたことでも話題になった。

* **はじめちゃん**＝ガッチャマン クラウズの主人公一ノ瀬はじめ。

* **電 5号**＝1972年から1974年まで放送されたテレビアニメ「科学忍者隊ガッチャマン」の登場人物、ガッチャマンの1人。大鷲の健、コンドルのジョー、白鳥のジュン、燕の基平とみみずくの竜。

えくてびあんの輪	
えくてびあんはリストのお店にあります。 今月は 錦町・柴崎町・立川市外 のお店です。	
錦町	IL COVO595-9071 イタリア料理トラットリアドン・シェ〜 512-8735 御菓子司 やな瀬522-3969 宮地楽器 MUSIC JOY 立川南 526-1779 カフェといもの penta merone 529-5221 中国料理 五十番522-7472 一六珈琲店527-1680 手づくりみそ 材料専門店 北島こうじ店 524-3190 new gyoza 1059 餃子天国 526-2283 イタリアンダイニング asa 529-5668 バー パル アラディ.....523-3917 H.works521-2721 CAFE SOMMEILLER527-1440 手打ち蕎麦 なかさと524-5758 中国整体院529-1088 中国菜館 多味軒526-5925 日本クッキングスクール.....522-3440 元祖5本指ソックス専門店 LASANTE 540-1616 ザ・クレストホテル立川521-1111 美容室 アリス525-1100 パンと洋菓子 うちのやブルマン 524-9280 手打ちそば くまはら川595-6810 FALCO hair528-2389 N HAIR WORLD.....523-5336 創作料理 caffe & bar 厨〜kuriya〜595-7449 TTM (株).....524-5787 長島昭久事務所548-2700 Bakery Café Crown526-2226 日本空手道 佐藤塾548-7460 三田花店本店524-4187 いわさき痛みの整骨院529-5123 にしや薬局525-9212 たましん RISURU ホール 526-1311 たましん 錦町支店.....528-0511 カレー店 CHOTA.....525-1004 パン工房 グラティア512-8667 たちかわ農産物直売所 そば処 高尾亭522-2710 Natural Food Restaurant シェ・いなば 529-5921 エステランテ ロズまり.....529-3037 Garden & Crafts Café 0120-412-877 至誠学舎立川527-7734 至誠ホーム527-0031 至誠介護相談センター527-0321
柴崎町	諏訪神社522-2968 (株) 毎日広告社522-6121 パスタビーノ はしや521-3386 高島ビル526-0111 Hair Room MOON ZETTON 523-0961 南武堂剣道具店527-0197 ビジネスホテル 小沢屋523-0388 おしゃべりカフェトーク・スペース 527-1636 ESBI 立川南口店526-2947 いなげや 立川南口店 (2F) 526-2947
立川市外	昭島市 いなげや 昭島郷地店545-4516 ECO'S 昭島店546-3710 武蔵村山市 中国料理 菜561-7233 さえき大南食品館561-7666 国分寺市 パンの店 fermata534-3334 小金井市 ONLY FREE PAPER

jorakugajo

真如苑提供番組〈常楽我淨〉

スカパー！：529ch
スカパー！で放送の常楽我淨はスマートフォンアプリ「ivy」(無料)で視聴できます。

J:COM 多摩：111ch
放送時間については番組表をご確認ください。

www.shinnyo-en.or.jp

街の話題

大盛況！シネマ2のサイエンスカフェ

平成26年12月20日、シネマ2の3階ラウンジでサイエンスカフェが行われました。折しも『妖怪ウォッチ 誕生の秘密だニャン!』のロードショー初日。小さいお子さん連れで混み合うシネマ2。外は冷たい雨になり、どうなることやらと思いつながら会場に着くと、すでに満員御礼のラウンジです。補助椅子がどんどん出され、幅広い年齢層が集まる素晴らしい会になりました。

講師は極地研究所 宙空圏研究グループ 准教授の宮岡宏先生。テーマは「聖夜のオーロラ物語」。昭和基地で撮れたての映像を見せてくださり、オーロラについての難しい話をわかりやすく解説してくださいました。オーロラは太陽と地球が協同して生み出す自然の芸術であるばかりでなく、人間が肉眼で見ることが出来る最も美しい宇宙現象。オーロラが光るには太陽と磁場が必要ことから、地球が生物の生存に必要な条件を満たしていることを示してくれる証でもあります。現在太陽活動がだんだんに弱まっているのですが、今年から再来年辺りまではものすごく多くのオーロラが見えるそうです。オーロラツアーはこの2〜3年がいいかもしれませんね。で、その後は次第に見えなくなってしまうのだとか。

極地研究所は日本にたった1つ、立川にしかありません。南極観測隊だって立川から出発しているのです。北極研究の要も立川。立川でだけ開かれているサイエンスカフェです。参加しなきゃソン！



箱根駅伝 本戦にも立川の味！

平成26年10月に行われた箱根駅伝予選会で本戦出場を手にした山梨学院大学は、入船茶屋さんにお弁当を注文していました。お正月2日と3日の本戦にも同じように入船茶屋さんのお弁当が注文されたそうで、入船茶屋さんでは正月返上の忙しさ。元旦から仕込みして、未明に盛り込んで150個近くを海老名へ。往路も復路も頑張ってほしい気持ちでお弁当を作ったそうですよ！

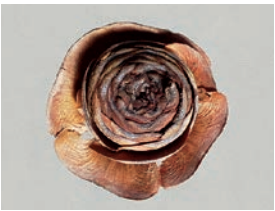


今年も温かく『至誠学舎ウインターバザー』が開催されました

朝は霜の降りた平成26年12月7日。お昼ごろには温かい日差しもあって、地域の多くの方々のご協力とスタッフの皆さんの笑顔で、今年も心温まるウインターバザーが開催されました。誰でも参加できるお餅つきやゲーム、模擬店にバザー。楽しい1日になりました。詳しい様子は多摩てばこネットのブログをご覧ください。

今年も冬の「バラ」がきれいです

諏訪神社の松ぼっくりです。毎年きれいな「バラ」になって目を楽しませてくれています。



えくてびあんスタッフ一同

表紙の人

みちなが
安藤徳長さん、永一さん、大貴さん

仕事場はいぐさの良い香りがします。やっぱり日本人は量だなあとと思う瞬間ですね。香りだけでは

はなく、湿度調節もしてくれる畳。保温や断熱にも優れているのに、最近は畳の部屋をもつお宅が少なくなったそうです。大正5年に曙町で畳



屋さんを始めて徳長さんが3代目。永一さんは4代目になります。強制疎開で八王子に疎開した3日後に終戦。すぐに立川へ戻って富士見町で営業再開されました。畳は良いものだと1枚30kgくらいあるそうですが、もともと部屋の造りに合わせて寸法を測って作るもの。技術がいます。徳長さんも永一さんも、みなさん畳1級技能士です。さて、大貴さん。慶応義塾体育会レスリング部に所属中。柔道から転身して体が締まったそうですよ。畳は軽々持てそうですね！

かたこと

◆節分・立春と暦の上では「春」ですが、まだまだ寒さの真っ只中。この時季、立川の街に雪が降り積ります。翌朝、街の人たちが総出で路面の雪を退けていますね。あちこちで汗を拭きながら、連二無二に雪をかく人々の姿はとても美しく輝いています。向こう三軒両隣と申しますが、お仕事などの都合で、雪かきが出来ないお宅の雪も当然のように片付けておられる。こうした思いやり溢れる光景を目にすると心が温まります。◆「タイムラプス」というカメラの撮影方法があります。同じ場所で一定の間隔をあけて撮影した静止画をつなぎ合わせて、動画のような映像を作り出す手法です。花のつぼみが開花する様子や雲の動きをとらえた映像など…普段、何気なく眺めている風景が、よりダイナミックで神秘的に映し出され、同じ景色がいつもと違って感じられます。では何が違うのでしょうか。それは「見る」と「視る」の違いではないかと思うのです。「見る」は眺めることの総称。一方、「視る」は凝視すると云うこと。見ているのに視ていないことが意外と多いことに驚かされます。立川という街の動き、息づかいのひとつひとつをよく視ていくことが大事と、改めて教えられた気がしてなりません。

えくてびあん ㊞

2月号 第33巻 通巻363号

平成27年2月1日発行
発行 有限会社えくてびあん
〒190-0023
東京都立川市柴崎町2-1-10 高島ビル4F
TEL 042-528-0082 FAX 042-528-0065
E-mail message@tamatebakonet.jp
URL http://www.tamatebakonet.jp
発行人 黒須 環
企画・写真・編集 えくてびあん編集スタッフ
デザイン 池田隆男 (WATER DESIGN ASSOCIATES)
印刷 三浦印刷株式会社

無断転載を禁じます。



甦るあの頃 —— 小川 優さんの 銀座通りジオラマから

①

高柳荒物店

小林玉來さん（柏町）

柏町で小林農園を経営されている小林玉來さん。砂川には玉來さんで12代目になるそうです。青梅の農林高校へ通っている頃は毎日銀座通りを通っていました。実習がある日などは地下足袋のまま電車に乗りました。お勤めした大学の研究室時代、『つつじ』に出会いました。以来今日までつつじと共に。銀座通り入口付近のバス発着所前でお店を出していた三田花店さん、当時は三田鶴吉さんの奥様が中心にお店番をされていましたが、そこへ小型トラックでつつじを届けると、届けたそばから売れて行ったそうです。当時の値段で卸値が1鉢120円～150円程度だったとか。

どのお店にも馴染みはありますが、銀座通りといえばなんといっても高柳荒物店。なぜならそこで買った弦籠を今でも使っているからです。50年も毎日使っているのに傷まない。なんでも入れて畑へ持って行くのだそうです。材料は何の弦なのか、本当に丈夫な籠だとおっしゃっていました。

